



薬局・薬剤師のためのニュースメディア

# HARMACY NEWSBREAK

## 調剤報酬改定「ステージが変わってきた」 後発品割合低い薬局の減算例に薬経連・山村会長

中小薬局でつくる保険薬局経営者連合会（薬経連）の山村真一会長は18日の記者会見で、2018年度調剤報酬改定について、後発医薬品の調剤シェアが著しく低い薬局に対する減算規定が設けられたことを例に、「従来は薬局の機能を底上げするためにインセンティブを付けてきたが、もうそのステージは終わった。その意味で大きくステージが変わってきた」との認識を示した。今後、薬局は受け身の姿勢ではなく、新しい提案をするなど具体的なアクションを起こす必要があると訴えた。



【写真】 記者会見する薬経連の山村会長

山村会長は18年度改定に関して、「従来は薬局の機能が十分でないところを底上げしていくためにインセンティブを付けて誘因していったが、もうそのステージは終わったということを実感した」と指摘。後発品の数量シェアが20%以下の薬局の調剤基本料を2点減算する規定が設けられたことを挙げ、「機能していないところは減算してもいいのではないか」という国民の声もあるくらいなので、その意味では大きくステージが変わってきた」との見方を示した。

個別の改定項目については「中身について細かいことを今議論するというよりも薬局業界が新しいものを提案していくアクションが必要ではないか。いつまでも受け身で、次はどうなるのかなとか予測しながら動いていくというスタイルはもう変えていかないといけない」と薬局の意識改革の必要性を訴えた。

### ● 大手たたき「客観的にもいびつ」

大型門前薬局などに対する評価の適正化が行われたことに対して、山村会長は「内部事情によって、大手、門前、門内たたきといういびつなものを業界として何となく容認したような形になったというのはあまりにもおかしい。客観的にもいびつだったということは強く言いたい」と指摘。田代健副会長は「長い目で見たとき、これで大手が鍛えられ、品質がどんどん上がる。大手たたきをあと3回繰り返せば、大手によるかかりつけ薬局化が完成していくのではないか」との見通しを示した。